

* 振廻乾湿度計発見

アーカイブ室新聞第368号に「ゴーチエ子午環室でSY式電動通風乾湿度計を発見」、375号に「ゼンマイ式通風乾湿度計発見」という記事を書いた。この二つの発見で乾湿度計は通風が肝心なのだと気がついた。乗鞍コロナ観測所閉所に伴う整理に飛び入りして、ゼンマイ式通風乾湿度計を発見したのだが、そこでもう一つ珍しい乾湿度計を発見した。なんと今度は「振廻し式通風乾湿度計」である。商品名は「振廻乾湿度計」(写真1)とある。湿度をはかる手段として、水が蒸発時に奪う気加熱の熱量が湿度によって異なる原理を使い、水を含んだガーゼ状の物に包んだ湿球と乾球との温度差から換算する。そこで通風した方が早く測れるという考えだろう。



写真1 乗鞍コロナ観測所で発見した振廻乾湿度計

赤い紙箱に立派な革製のサックに納められていた(写真2)。振り廻すために握り棒がついた鎖が乾湿度計本体に繋がっている。湿球の方に水を浸して振り廻して、湿球と乾球の温度差を読んだのであろう。この温度差から湿度に換算する換算表が無いのが残念である。

現在では、デジタル乾湿度計が安価に手に入り、容易く湿度を読むことが出来るが、これが精度は±5%とあるから、やはり湿度による水の気化熱で奪われる熱量で測定するのが正確なのだろう。

手軽に湿度を知るためにいろいろ工夫が凝らされてきたことが、3種類の通風式の乾湿度計を発見したことによって分かってきた。我々が小学校以来なじみであった乾湿度計(写真3)は、2本の温度計の一方に水の小さなタンクがついていて、湿球の方がガーゼで包まれ、その端が水タンクに入っていたものである。その温度差を湿度への換算表を使って湿度を読んでいた。



写真2 発見された時の振廻乾湿計

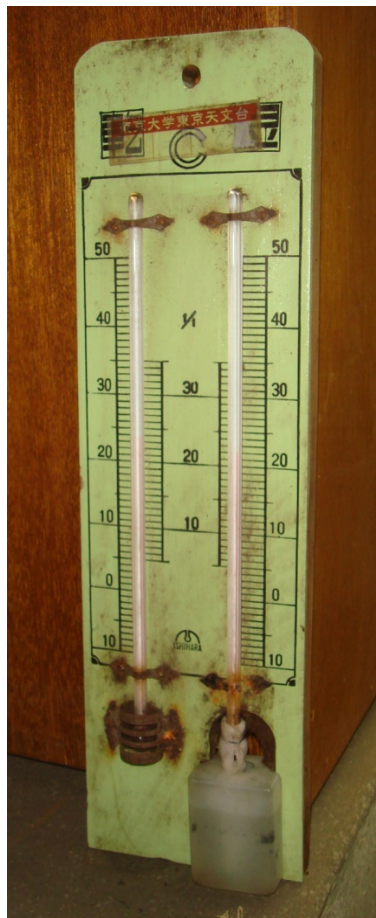


写真3 おなじみの乾湿度計